

平成 22 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18203030

研究課題名（和文） 家族研究のための大規模長期継続データの構築

研究課題名（英文） Construction of the large scale repeated cross sectional data set
for family studies in Japan

研究代表者

稲葉 昭英（INABA AKIHIDE）

首都大学東京・大学院人文科学研究科・准教授

研究者番号：30213119

研究成果の概要（和文）：本研究は、1999年と2004年に行われた全国家族調査に引き続く第3回調査(NFRJ08)を計画・実施し、公共利用データを作り上げることを目的とする。2008年11月～12月に、日本の全国（島嶼部を除く）に居住する28歳から72歳までの男女を対象に9,400人を層化二段無作為抽出によって抽出、2009年1月～2月に訪問留め置き法に実査を行い、5,203名から回収票を得た（回収率55.4%）。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research project is to plan the research design of the 3rd National Family Research of Japan (NFRJ08), which is the serial social survey research after those conducted in 1999 (NFRJ98) and 2003 (NFRJ03), and to do this survey. We finally plan to make up this data set as a public use one for researchers. We selected 9,400 samples by stratified two stage random sampling method among people aged 28 to 72, men and women living in Japan, between November and December in 2008. We did survey by self-administered questionnaire method between January and February in 2009. We got 5,203 respondents from them (response rate was 55.4 percent).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	500,000	150,000	650,000
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	34,300,000	10,290,000	44,590,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	36,300,000	10,890,000	47,190,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：全国家族調査、公共利用データ、日本家族社会学会、NFRJ08、第3回全国家族調査

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本家族社会学会では、1999年1月に第1回全国家族調査(NFRJ98)を実施、このデータを公共利用データとして研究者に公開した。全国家族調査は反復横断調査として5年間隔で継続的にデータを収集することが当初から計画されており、2004年に第2回調査(NFRJ03)が実施された。第3回調査は2009年に実施が予定されていた。

(2) 2006年度より、日本家族社会学会全国家族調査委員会が中心となり、メンバーを学会内で公募、NFRJ08実行委員会を組織した。研究代表者(稲葉)がこの委員会の委員長をつとめている。

2. 研究の目的

第3回全国家族調査(NFRJ08)の計画と実施、および公共利用データの作成である。

3. 研究の方法

(1) NFRJ08実行委員会では、デザイン班、調査票班、サンプリング班、クリーニング班に作業グループをわけ、それぞれがNFRJ08の実現にむけて作業をすすめ、定期的に全体会を開催した。

(2) 以上の作業の結果できあがったサンプリング計画と調査票について、実査を(社)中央調査社に委託し、住民基本台帳を用いたサンプリング、調査員による訪問留置回収法による調査を行った。サンプリングは全国の28歳~72歳の男女を母集団とし、9,400人を層化二段抽出で抽出した。この規模は従来よりも小さいが、これは予算的な制約によるところが大きい。特別推進などの大型研究費にも応募したが、採択されることはなく、やむなく標本の規模を従来よりも少なくした。

(3) 調査票は年齢に応じて異なった内容を尋ねるべく、若年票、壮年票、高年票の3種類を用いた。これまで2回の調査で用いられている項目を継続的に使用することを前提としつつ、いくつかの項目について見直しを行った。

(4) データのクリーニングは、クリーニング班が中心となって仕様書を作成、その仕様書にそったクリーニングを中央調査社が行った。そのうえで、さらなるクリーニングをクリーニング班が実施した。

4. 研究成果

(1) 実査の結果、5,203名から回答を得た。(回収率55.4%)。内訳は正規対象は4901名、予備対象が302名であった。

(2) データクリーニングの結果、最終的なデータが2010年12月初旬に完成した。データはただちにNFRJ08実行委員会メンバーに配布され、各委員が分担執筆する形で第1次報告書を作成した。この報告書は、すべての変数について、性別×年齢とのクロス集計を実施したものである。

(3) 2010年4月より、2次報告書の作成にむけてNFRJ08研究会を組織した。メンバーは学会内で公募し、このデータを使って実質的な研究を行っていく。データは、2011年度中には研究者向けに一般公開の予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計16件)

① 嶋崎尚子, 2010 「NFRJ 成果の社会的還元を考える」『家族社会学研究』22(1): 89. (査読無)

② 吉田 崇, 2010 「『現代日本人の家族』と全国家族調査の意義」『家族社会学研究』22(1): 90-95. (査読無)

③ 米村千代, 2010 「NFRJ からみた現在家族の姿—パブリシティと専門性の接合—」『家族社会学研究』22(1): 96-101. (査読無)

Nobutaka, FUKUDA, 2009, “Women’s Human Capital and Their Family Formation in Japan: Who Puts off and Gives Up Childbearing?”, Aoyama Journal of Social Informatics, 1: 19-34, (査読無)

④ 田中重人, 2009 「NFRJ08 標本抽出と調査実施」『家族社会学研究』21(2): 208-213. (査読無)

⑤ 石原邦雄, 2009 「北東アジアの3カ国家族比較研究プロジェクト」『家族社会学研究』21(2): 214-219. (査読無)

⑥ 嶋崎尚子, 2009 「<NFRJ>の確立に向けて1: NFRJ08の実施にあたって」『家族社会学研究』21(1): 110-113 (査読無)

- ⑦西野理子, 2009 「<NFRJ の確立>に向けて 2: 家族パネル調査という新たな試み」『家族社会学研究』21(1): 114-117. (査読無)
- ⑧島直子・品田知美・田中慶子, 2009, 「<NFRJ の確立にむけて>3-調査項目の継承と新たな試み-」『家族社会学研究』21(1): 118-227. (査読無)
- ⑨Jungnim Kim, et al., 2008 "Effect of Household Composition and Some Health Indices on Mortality Risk in Middle-aged Japanese from a Seven-Year Cohort Study", 日米高齢者保健福祉学会, 3: 131-144 (査読有)
- ⑩施 利平, 2008 「戦後日本の親子・新族関係の持続と変化」『家族社会学研究』20(2): 20-33 (査読有)
- ⑪保田時男, (2008 「教育達成に対するきょうだい構成の影響と時代的变化」『大阪商業大学論集』150: 115-125. (査読無)
- ⑫稲葉昭英, 2007 「全国家族調査の困難: 第3回全国家族調査の実現にむけて」『家族社会学研究』19(2): 99-105. (査読無)
- ⑬保田時男, 2007 「NFRJ08における複数調査票の作り方」『家族社会学研究』19(2): 99-105. (査読無)
- ⑭松田茂樹, 2007 「全国家族調査の質問項目の使用頻度」『家族社会学研究』19(2): 113-120. (査読無)
- ⑮Inaba, Akihide, 2007, "Problems Relating to Declining Response Rates to Social Survey Research in Japan: Trends After 2000", *International Journal of Japanese Sociology*, 16: 10-22. (査読有)

[学会発表] (計 8 件)

- ① Tanaka, Shigeto "A Quantitative Analysis of Gender Gap in Post-Divorce Life", International Seminar "Gender Equality in Multicultural Societies: Gender, Diversity and Conviviality in the Age of Globalization, 2009. 08. 04, Tohoku University
- ②西野理子 「全国家族調査(NFRJ)のポプリティ」第 19 回日本家族社会学学会大会, 2009. 09. 12 奈良女子大学.
- ③Nishimura Junko, "Socioeconomic status and mental health in East Asia". 2009 Summer Meeting of Research Committee 28, International Sociological Association (at Yale University) (2009. 8. 6).
- ④ Nishimura, Junko, 2008a, "Women's socioeconomic status and distress:

Comparative study between Japan and Korea," 103rd American Sociological Association Annual Meeting, Boston, August 1 to 4.

- ⑤Nishimura, Junko, 2008b, "Socioeconomic status and distress: Comparative analysis in Japan and Korea," International Sociological Association Research Committee 28 Meeting, Stanford University on August 6 to 9.
- ⑥吉田崇, 2007 「所得不平等の世代間固定性に関する実証分析」第 17 回日本家族社会学学会大会報告、2007 年 9 月 8 日、於札幌学院大学社会情報学部.
- ⑦ 宍戸邦章, 2007 「JGSS 累積データ 2000-2006 にみる家族にかかわる意識の変化」第 17 回日本家族社会学学会大会報告、2007 年 9 月 8 日、於札幌学院大学社会情報学部.
- ⑧鈴木富美子, 2007 「NFRJ からみたサポート・ネットワークの様態」第 17 回日本家族社会学学会大会報告、2007 年 9 月 8 日、於札幌学院大学社会情報学部.

[図書] (計 4 件)

- ①藤見純子・西野理子編『現代日本人の家族: NFRJ からみたその姿』有斐閣、2009 年
- ②日本家族社会学学会全国家族調査委員会編『第3回家族についての全国調査(NFRJ08) 第1次報告書』、2010 年
- ③田中重人, 2010, 『ジェンダー平等と多文化共生: 複合差別を超えて』(辻村みよ子・大沢真理編、第5章「女性の経済的不利益と家族」を執筆)、99-118 頁、東北大学出版会.

- ④Tanaka, Shigeto, 2010. "Gender Equality and Multicultural Conviviality" (Tsumijima Miyoko and Osawa Mari eds.; Chapter 11 "The family and women's economic disadvantage"), pp215-234

[その他]

ホームページ等
<http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

稲葉 昭英 (INABA AKIHIDE)

首都大学東京・大学院人文科学研究科・准教授

研究者番号: 30213119

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

石原 邦雄 (ISHIHARA KUNIO)
成城大学・社会イノベーション学部・教授
研究者番号：00106212

嶋崎 尚子 (SHIMAZAKI NAOKO)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：40216049

渡辺 秀樹 (WATANABE HIDEKI)
慶応義塾大学・文学部・教授
研究者番号：30114721

田中 重人 (TANAKA SHIGETO)
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：60294013

藤見 純子 (FUJIMI SUMIKO)
大正大学・人間学部・教授
研究者番号：60173457

永井 暁子 (NAGA AKIKO)
日本女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：10401267

西村 純子 (NISHIMURA JUNKO)
明星大学・人文学部・准教授
研究者番号：90350280

神原 文子 (KANBARA FUMIKO)
神戸学院大学・人文学部・教授
研究者番号：50186178

保田 時男 (YASUDA TOKIO)
大阪商業大学・総合経営学部・講師
研究者番号：70388388

澤口 恵一 (SAWAGUCHI KEIICHI)
大正大学・人間学部・准教授
研究者番号：50338597

福田 亘孝 (FUKUDA) NOBUTAKA)
青山学院大学・社会情報学部・教授
研究者番号：40415831

田淵 六郎 (TABUCHI ROKURO)
上智大学・総合人間科学部・准教授
研究者番号：20285076